

第4回 東近江市市民協働推進委員会 オリエンテーション資料



平成24年10月12日

資料内容について

WSにおいて、委員の皆様との共同作業を円滑に進めるため、下記の内容をもとにお話しします。

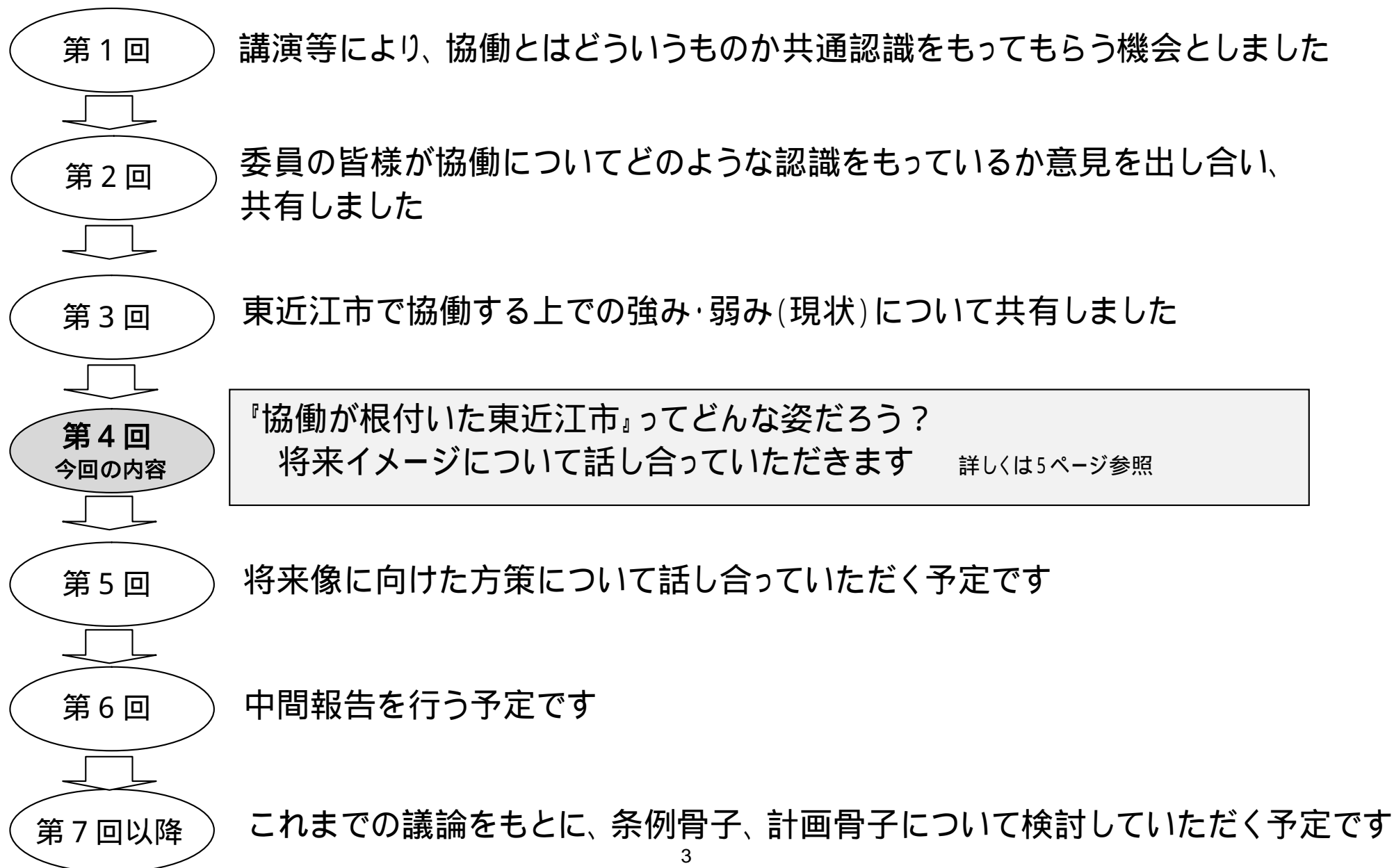
ポイント

- 1 . 現在までの委員会の流れと本日の検討内容
- 2 . 協働・参画の考え方の再確認
- 3 . 前回の意見のふりかえり

1 . 現在までの委員会の流れと

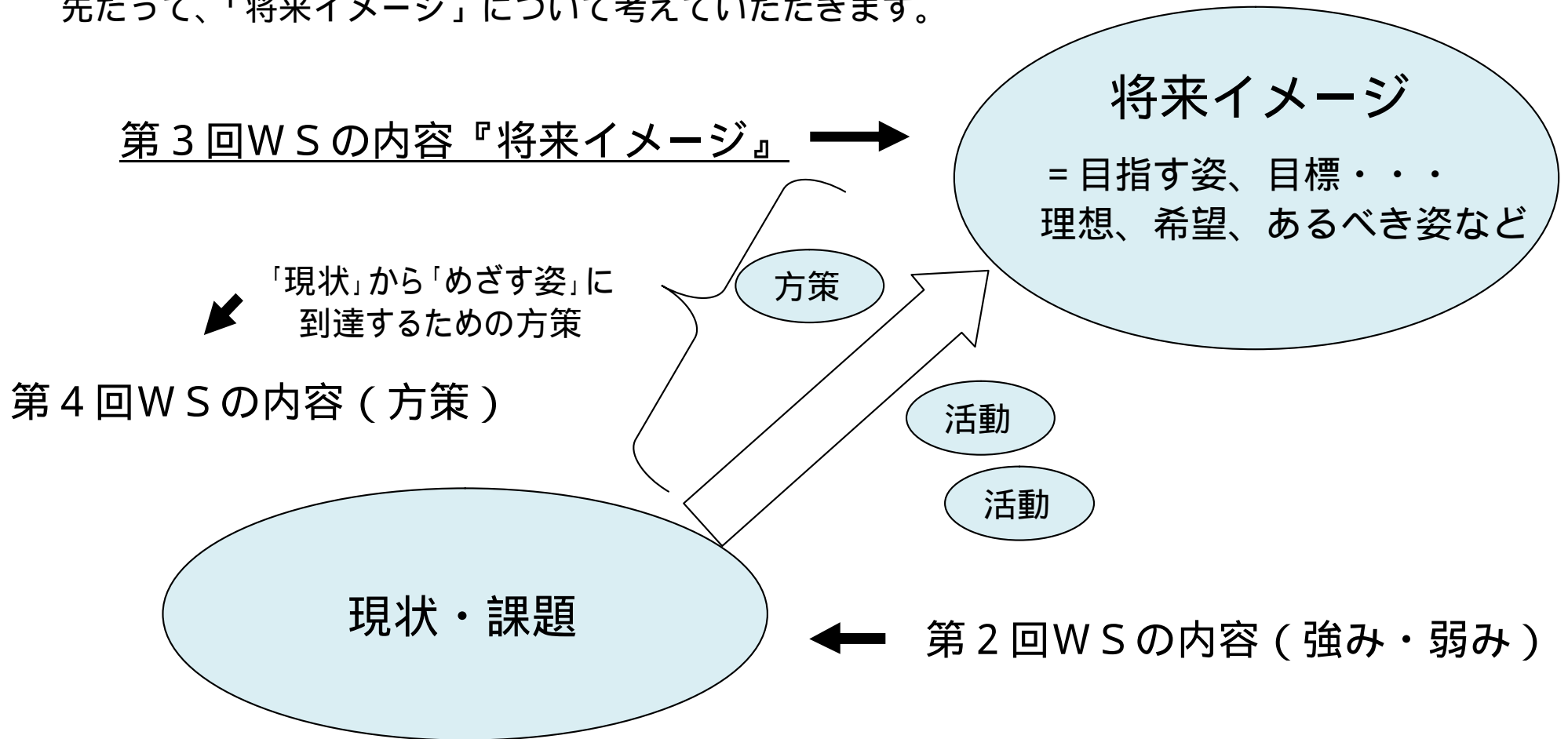
本日の検討内容

1-1 委員会、ワークショップの流れについて



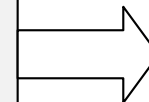
1-2 WSの流れについての再整理

「方策」を先に考えるのではなく、先に目指す姿を考えることにより、目標が明確になり、「目指す姿」にどう向かっていけばよいか道筋が立てやすくなります。そのため、今回のWSでは、課題の解決策に先だって、「将来イメージ」について考えていただきます。

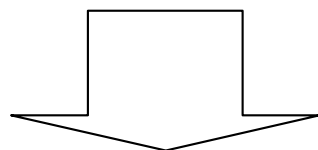


1-3 第3回WSで話し合う内容について

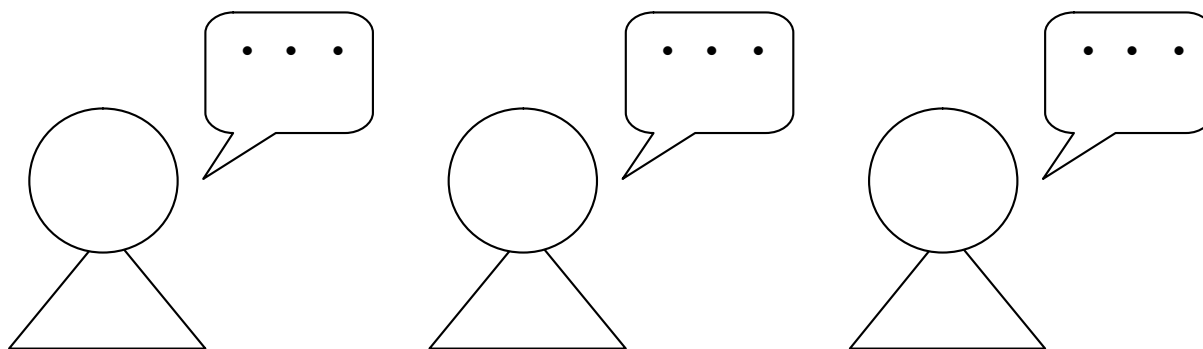
「協働が根付いた東近江市」ってどんな姿だろう？
将来イメージについて語り合おう！



根付いている
〃
・何気なく行われている
・普通のことである

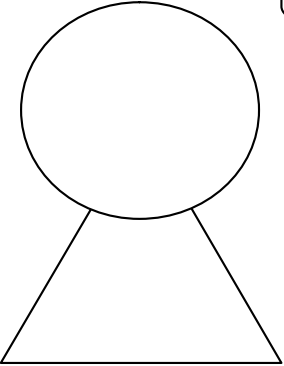


具体的なシーンはどんな姿だろう？具体的に協働が行われているシーン・姿を思い浮かべて意見を出してもらいます。



例を3つあげますと…

例えば . . . 農道のあぜ道の整備

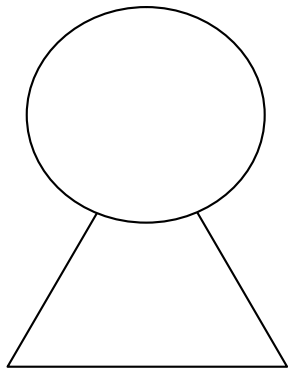


農道の道がでこぼこになっているどうしよう . . . 。
地域で協力して直そう！！
資材は行政に調達してもらいたいなあ . . . 。

意見の出し方として . . .

あぜ道の舗装など、地域が主体的に動き、
行政が支援している（地域）（姿）
など

例えば . . . 公募委員として参画



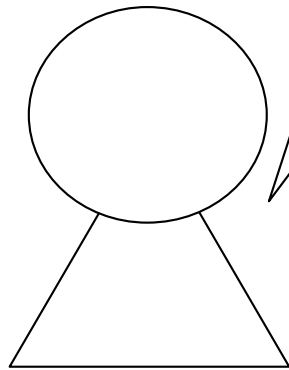
東近江市では障害をもった子どもへの教育体制が不十分のよ
うに感じる . . . 。
計画づくりに一緒に携わりたい。
公募などで住民から委員を募集してもらいたいなあ . . . 。

意見の出し方として . . .

市職員と住民が共に考える機会が多く、住
民の意見が反映されている

など

例えば . . . マラソンの実行委員会への関わり



もっと市民ランナーが主役になれる大会を開催できないかな . . . 。
行政主導の大会ではなくて、自分で企画したいな。
連携できそうな機関など行政は相談に乗ってくれるかなあ . . . 。

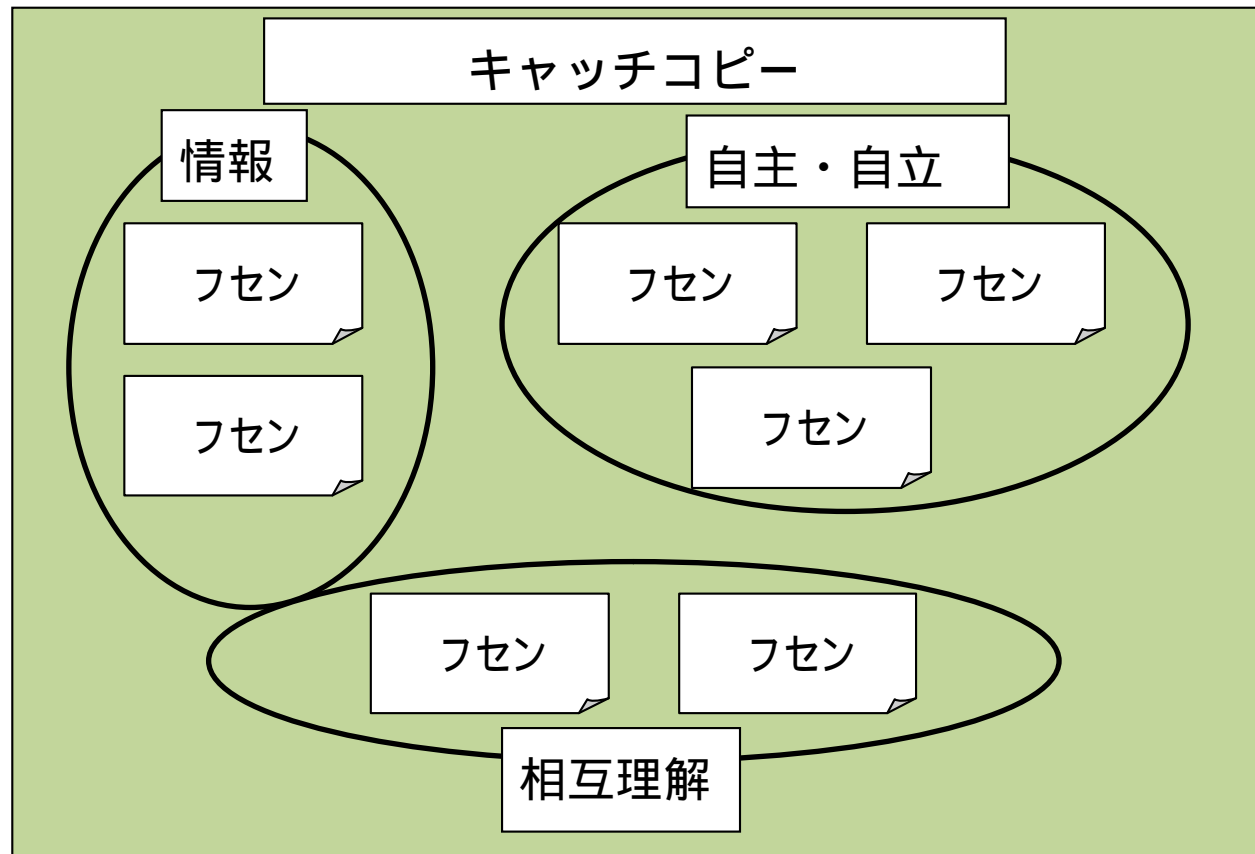
意見の出し方として . . .

市民活動や事業を行う際に、相談窓口があり、市民が主体的に事業を実施できるようになっている

など

1-4 WSの取りまとめイメージについて

議論の取りまとめとしては以下のようにまとめます。



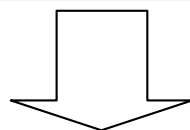
※別紙 資料3においても掲載しています。

2 . 協働・参画の考え方の再確認

2 - 1 「協働の基本理念」「基本原則」「参画」の概念を再確認

協働とは・・・

さまざまな主体が、主体的、自発的に、共通の活動領域において、相互の立場や特性を認識・尊重しながら共通の目的を達成するために協力すること
(市民と行政の相互の関わり方を定める)



7つの基本原則にまとめられます

「自主・自立」「対等であること」「相互理解」

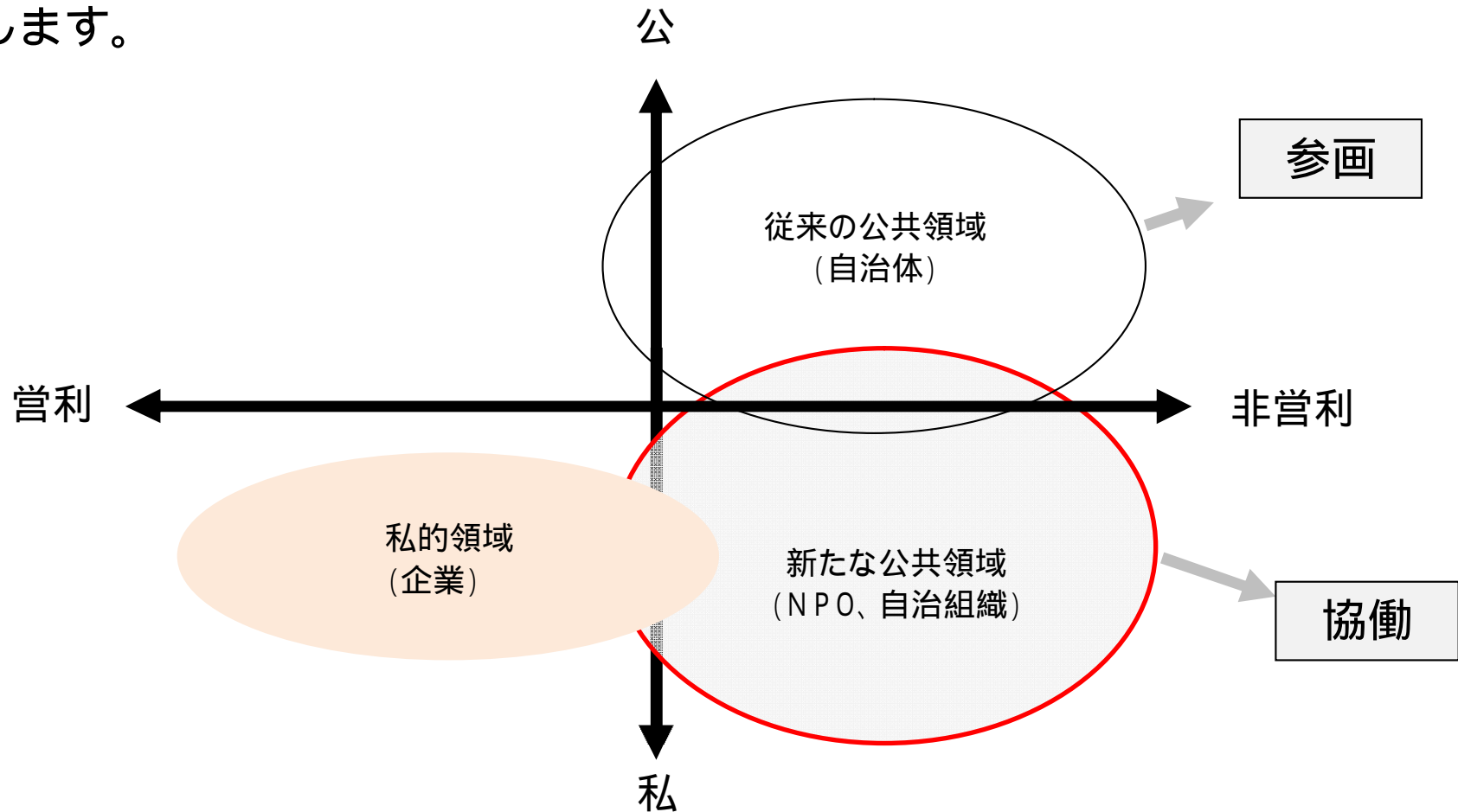
「目標の共有」「情報公開」「評価の機会」「役割の分担及び責任の分有」

一方で、参画とは・・・

市の政策等の立案、実施及び評価に至る過程において、市民が責任をもって自主的かつ自発的に参加し、意思（政策）形成に関わること
(市民の行政（施策）への関わり方を定める)

2-2 「協働」と「参画」の概念図

本来、協働と参画については分けにくいものですが、協働と参画についての概念図を示します。

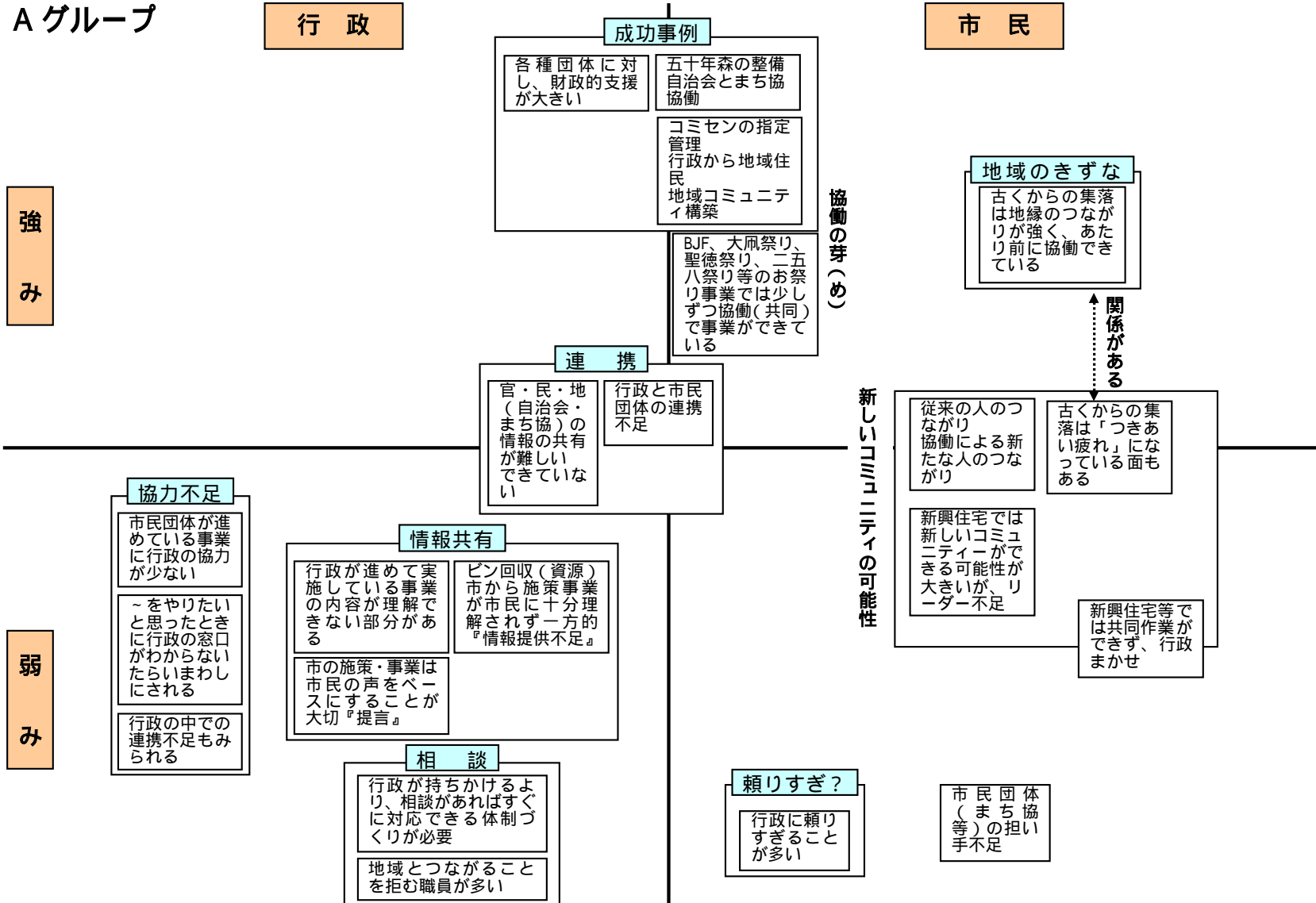


以上の考え方を念頭に、話し合いを進めましょう。

3 . 前回の意見ふりかえりについて

3-1 前回意見

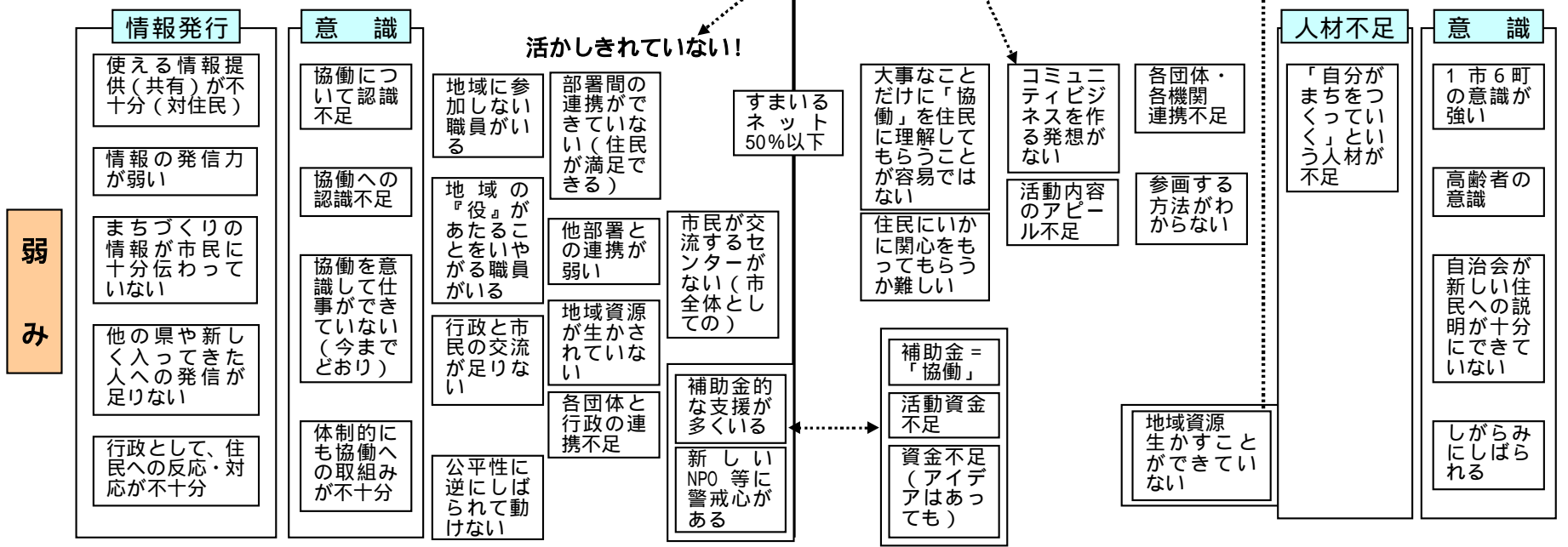
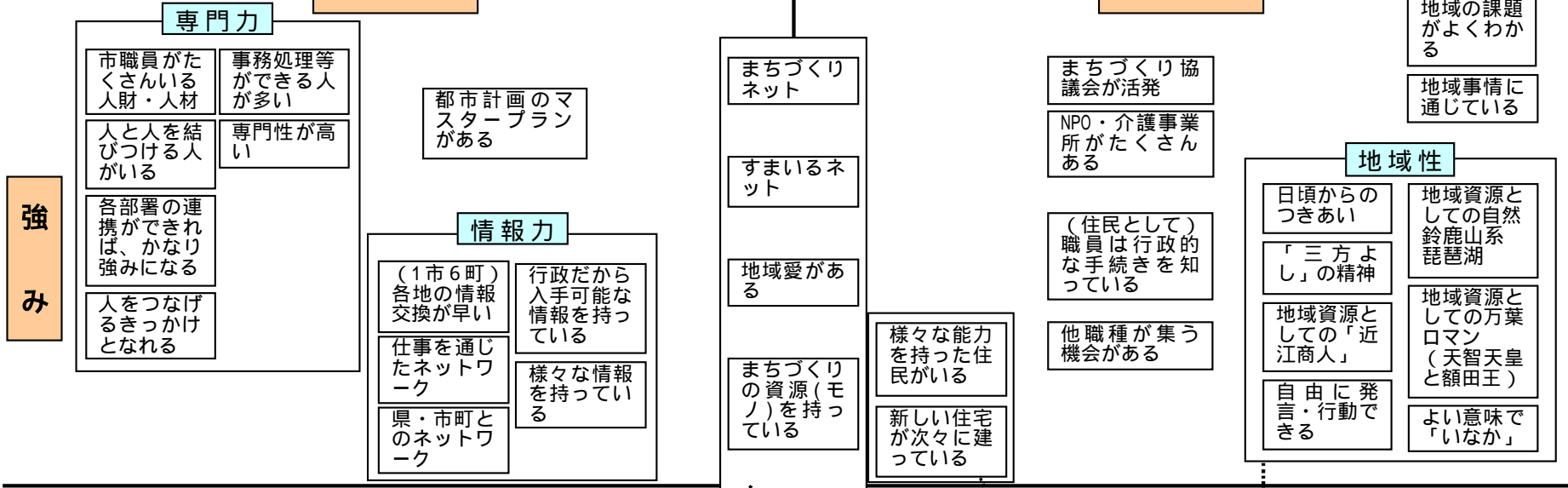
Aグループ



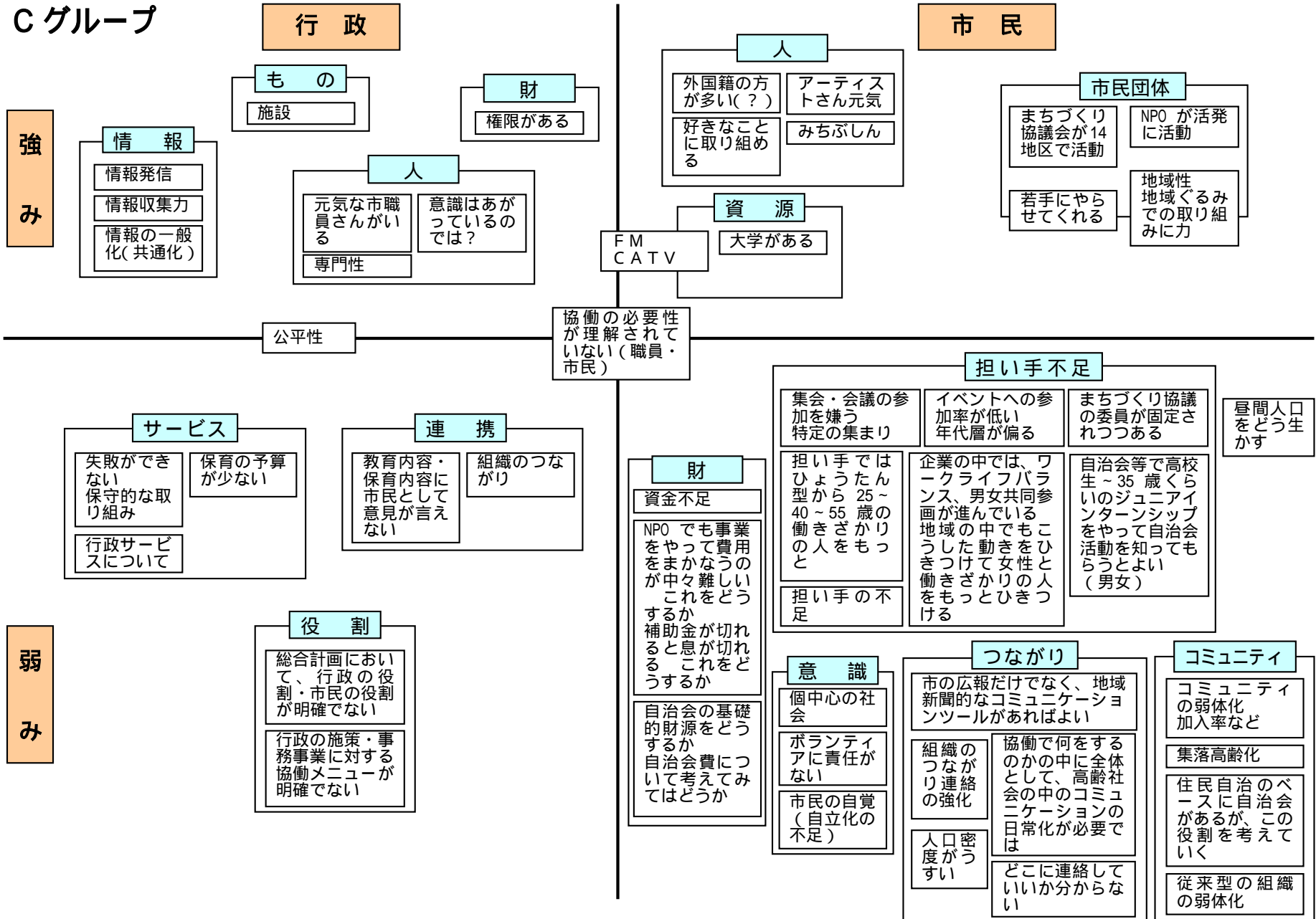
Bグループ

行政

市民



Cグループ



Aグループの意見として

【行政】

【行政の強み（より良い委託、事業の実施）】

- ・行政の強みとしては、コミセンの管理がうまくいっているということから、地域コミュニティの構築がうまく進んでいるのではという意見が出ていた。また、大風まつりや聖徳まつりなど祭りに関する事業では、少しずつ協働・参画ができてきており、それぞれの地区でもイベントを立ち上げてつながりをつくっていくべきではないかといった意見が出ていた。

【行政の弱み（庁内及び市民との情報共有、市民団体への協力不足）】

- ・行政の弱みとしては、行政内の情報の共有と行政と市民の情報の共有ができていないという意見が出ていた。また、市役所に行っても担当が違えばたらい回しにされることがあることから、それぞれの職務の中で協働的に事業を進めていく必要があるとともに、具体的に何か事業を推進する時には、市民の理解の上、市民の声をベースにする、市民と行政が対等の立場で協議し施策に活かすプロセスを踏む、ボトムアップも含めた提言をしていく必要があるのではといった意見が出ていた。他にも協力不足として、市民団体への行政の協力が少ないという意見も出ていた。

【市民】

【市民の強み（地縁の強さ、新住民の存在）】

- ・市民の強みとしては、地縁のつながりが非常に強く、色々な活動をするのでまとまりがあるという意見が出ていた。また、新興住宅に住む方の中には新しいコミュニティができかけており、価値観が合えばすぐにまとまって行動してくれたり、自治会内の活動に参画してくれたりなど、人と打ち解けるのが早く、つながりをつくる上で重要となっているとの意見も出ていた。

【市民の弱み（新住民とのつながりの薄さ・担い手不足、コミュニティの弱体化・高齢化、意識の問題）】

- ・市民の弱みとしては、新興住宅に住む方たちはつながりが薄く、高齢者と若者との間に地域でのつながりにギャップが生まれている。また、新興住宅に住む方は、何かの目的については動いてくれるが、中心になって組織づくりに関わってくれる人が少なく、担い手不足にあるという意見や活動の中心が高齢者ということで、高齢化が進んでいるといった意見も出ていた。さらに、活動としても自分たちの活動ではなく、動員要請的に行政に使われており、本来の活動の魅力がなくなり、衰退してきているといった意見も出ていた。他にも、各種団体（子ども会、育成会等）が自立していない、市民がやってもらって当たり前といった意識になっているなどの意見が出ていた。

Bグループの意見として

【行政】

【行政の強み（専門性の高い職員の存在、さまざまな情報）】

・行政の強みとして、「市の職員がたくさんいる」「専門性が高い」「たくさんの情報をもっている」といった意見が出ていた。

【行政の弱み（協働への認識不足、情報発信・提供不足）】

・行政の弱みとして、たくさんの良い職員がいるが、「『協働』に関しては、認識不足ではないか」という意見や情報力はあるが、情報発信や情報提供が不十分で、住民になかなか理解されるまでいってないのではないかという意見が出ていた。

【市民】

【市民の強み（地域性の良い、新住民の存在）】

・市民の強みとして、地域性として、日頃の付き合いもあるし、三方よしの精神もあり、良い意味での田舎の良さが出ているところが強みという意見や、新しい住民がどんどん入ってきて、新しい住宅が建つ中でさまざまな住民がいることが強みではないかという意見が出ていた。

【市民の弱み（協働への関心の薄さ、担い手・人材不足）】

・市民の弱みとしては、まちづくりに関心の薄い人がいたり、「協働」に関して理解できていないといった意識の問題から、担い手不足、若者や女性リーダーが少ないという人材不足などの意見が出ていた。

【全体】

【全体を通しての意見（強みを生かしきれしていない・資金の問題）】

・全体を通すと、まちづくりネット、スマイルネット、地域愛、資源がありよい強みがあるのにそれを生かしきれしていないという部分が一番の課題ではないかという意見や、行政の支援＝補助金ではないが住民にとっては活動する上では資金は必要といった意見が出ていた。

Cグループの意見として

【行政】

【行政の強み（権限、専門性、情報の収集力）】

- ・行政の強みとして、「権限をもっている」ことや「職員の意識が合併したことによって上がっているのではないか」「元気な職員がまだまだいる」「専門性のある立場の人間がいる」などの意見、また、情報の話として「色々な分野に関わる部署があるので、情報の収集力や発信力がある」という意見が出ていた。

【行政の弱み（保守的、細かなサービス不足、連携不足）】

- ・行政の弱みとしては、公平性ということで、市民に対して分け隔てなく色々なサービスをするのはある意味強みだが、個別のサービス、個々の多様化したサービスには対応できていないのではという意見や、「教育内容、保育内容に対しては、市民としての意見を言える場がない、市民からの集約する場所がない」などの意見が出ており、自治会、まちづくり協議会などで意見を集約する場などできてきているが、個々の状況としては、まだまだ連携できていないところがあるといった意見が出ていた。また、その他にも「行政のサービスが低下してきている」という意見や「失敗できない組織柄から、保守的な取り組みが多くなっている」「総合計画の中で、市民と行政の役割というものをしっかりきちとしていく必要があるのではないか」などの意見も出ていた。

【市民】

【市民の強み（人材が豊富、市民活動が活発）】

- ・市民の強みとしては、アーティストや芸術家、外国人などまちづくりを活性化させる人材が豊富にいることや情報面としてFM、ケーブルテレビがあることなどの意見が出ていた。また、市民活動（新しくできた団体・NPO活動）が活発であり、若手が活動の中心として参加しやすい体制があるといった強みも出ていた。

【市民の弱み（活動資金不足、担い手不足、コミュニティの弱体化）】

- ・市民の弱みとしては、事業を行う上での資金不足という意見から財源をどう生み出していくべきかという意見が出ていた。また、担い手不足というくりの中でまち協の委員の高齢化やイベントでの若手の参加率をどうあげるかななどの課題も出ていた。さらに、個人中心の社会になっていることから、自治会加入率の減少やコミュニティの高齢化が進み、従来の組織としてのコミュニティの弱体化が進んでいるのではという意見も出ていた。

3-2 全体の意見まとめとして（表）

| | 行政 | 市民 |
|----|--|---|
| 強み | <ul style="list-style-type: none"> ・人材が豊富にそろっている ・専門性が高い ・多くの情報をもっている ・ネットワークをもっている ・権限がある（財源等） ・指定管理がうまくいっている ・地域コミュニティの構築をうまく進めつつある | <ul style="list-style-type: none"> ・古くから地縁が強い ・地域愛、郷土愛が豊かである ・地域事情に精通 ・まち協の活動が活発 ・自由に発言・行動ができる ・さまざまな能力をもった住民がいる ・NPO活動が盛ん ・新住民が多い |
| 弱み | <ul style="list-style-type: none"> ・市民団体・部署間との連携ができていない ・市からの施策事業が市民に伝わりにくい ・相談体制が不十分（どこに相談したらよいか分からない） ・協働についての認識不足 ・予算が少ない ・失敗ができないので保守的な取り組みが多い ・役割分担が明確にできていない ・市民団体が進めている事業などのへの協力不足 ・情報の発信や情報提供が十分でない | <ul style="list-style-type: none"> ・市民の意識が低下している（行政に頼っていることが多い） ・担い手不足、担い手の高齢化、若者などのリーダー不在 ・コミュニケーションツール不足 ・コミュニティの弱体化 ・集落高齢化 ・参画する方法が分からない ・各団体・各機関の連携不足 ・活動資金不足 ・各種団体が自立していない ・新興住宅地において、地域に関しての世代間のギャップがある |



- ・強みを伸ばすとともに、弱みを克服していくことが重要。しかし、意見の中には、行政と市民で分けにくい部分や、強み・弱みが表裏一体となっている意見が出ていた。

3-3 課題設定のための整理

全体の課題として（市民・行政分けられない課題）

1. 意識面 「協働の必要性が理解されていない（職員・市民）」という意見があることから、行政・市民側ともに、協働する上での意識が足りていない。
2. 連携不足 「行政と市民団体の連携不足」という意見があることから、庁内、市民と行政間、市民同士での連携が取れていない。
3. 資金面 「各種団体に対し、財政的支援が大きい」「活動資金不足」という意見があることから、協働で行うことに対してお金をどう回すかの工夫が必要。

個々の課題（強みでもあるが弱みでもある）

1. コミュニティ
 - ・新しい住民はさまざまな人がおり、今後の力になり得る。新しい住民はつながりが薄いし、自治会加入率、イベントへの参加率が低い
 - ・地縁が強く、まとまりがある コミュニティは高齢化・希薄化による弱体化が進んでいる
 - ・さまざまな住民がいる コミュニティ活動への担い手不足
2. 情報・ネットワーク
 - ・行政は情報収集力が高いし、たくさんの情報をもっている 住民としては情報不足に感じている、意思疎通ができていない
 - ・行政はさまざまな主体と連携できるネットワークをもっている 庁内・市民との連携不足がある（相談にいてもたらい回しにされる）
3. 市民や市民活動等への支援
 - ・行政による色々なサービスを行っている 個別のサービスに対応しきれない現実がある
 - ・専門性の高い職員・元気な職員がおり、さまざまな支援を行っている 行政と市民の交流不足、市民活動への協力不足等感じている

団体ヒアリングの意見

- ・「協働」という以前に、お互いの信頼関係から考えないといけない
- ・行政職員全般的に協働への熱意が薄い
- ・行政から「ありがとう」といったねぎらいの言葉がない
- ・市民と行政が対等の立場に立っていない

21

前回意見・団体ヒアリングからみえてきた課題

市民と行政との関係性を構築していかなければならないのでは？

3-4 先生の総括として（議論の方向性として）

- ・担い手不足、まちに興味のない人がいるという実態はあるが、新住民が多くなってきているということは強みとして捉え、まちにいなから興味関心のない人たちをどう工夫するか考える必要がある。
- ・まちや地域に興味をもつ若者は多くなっているのに地域に若者がいないという現状があるのは、若者がやりたいことがたくさんあるのに、自分たちのいる意味や自分たちの活躍することの意味が見いだせておらず不満をもっているというところでミスマッチが起こっているため、このような強み・弱みのギャップをどう工夫するかが協働を考える上でヒントになると思った。
- ・実際に方法としてどうしていけばよいのかわからないという話の中で、例えばお金の話が出てきたが、市民側がどうお金を生み出すかというところというのは、従来の今までの発想の中ではなかなか考えられない。しかし、わざわざお金を東近江市の外に出さなくてもよくて、今ある資源を使ってどうお金を回すか、仕事の保障をするかというところを皆で工夫していくといったことが重要となる。
- ・行政職員の方が職員の意識が変わってきたと言われて嬉しいと言っていたが、議論の中で強みや弱みに気づかされるということは大事なことなので、立ち位置が違う人たちが議論をすることは重要であると思う。



- ・強み・弱みのギャップをどう工夫していくかが今後の協働を考えるうえでヒントとなっている。
- ・資金面等についても今ある資源を使ってどうお金をまわすかなどの工夫が重要。

3-5 今日議論することの再確認

「協働が根付いた東近江市」ってどんな姿だろう？
将来イメージについて皆で語り合おう！
また、キャッチコピーも考えよう！

楽しみながらワークショップを
進めていきましょう。